

アジア珠算会議が開かれる

昭和36年（1961）、中華民国珠算学会、韓国珠算研究会、沖縄珠算連盟、マカオ珠算学会、泰国珠算教育協会と日本の全国珠算教育連盟はアジア珠算会議を開催し、検定試験、共同研究、相互交流などについて、国際的な立場にたった事業の協力について討議しました。この会議は第2回から世界珠算会議と改称され、珠算の世界化を推し進めることになりました。

世界各国へ珠算が普及されはじめた

昭和39年（1964）東京でオリンピックが開催され、選手村でそろばんのデモンストレーションを日本の珠算の先生が行いました。これを契機としてアメリカを始め、世界各国へ珠算を指導に行く人が多くなりました。直接の普及には、昭和38年に全国珠算教育連盟はアメリカのロサンゼルスを中心とした地域へ坂内明を派遣し、つづいて山崎正雄、鈴木功二も派遣して珠算の普及にあたらせ、昭和52年（1977）には南カリフォルニア大学のレオ・リチャーズ氏によって同大学内に珠算教育センターが設立された。また、メキシコでは国立メキシコ工業大学の円正光、メキシコ専門学校のリイス・I・ベナビテスが珠算普及の活動をしており、ブラジルでは故加藤福太郎がブラジル珠算連盟を設立し、現在は子息の加藤・ジョエル・崇巖が全ブラジルで活発な珠算普及活動が続けていて、日本のそろばんが多くの国々で、計算の道具や算数の教具として、普及しはじめました。

